

導入事例

セキュリティ
管理性

intel®

社長兼レーシングドライバー、 多忙極める経営者が選んだノートブック PC とは？

どこにいても業務できる環境づくりを 「インテル® vPro® プラットフォーム」で実現する

目次

- PCは自分の「脳」の代わりになる大事な
もの…………… 1
- 業務とレース活動の両方のニーズを1台で
満たすノートブックPCとは …… 2
- 攻撃されてからでは遅い。高いセキュリ
ティーの信頼ある製品を …… 2
- 最上位機種でなくてもよいので、買い替え
サイクルは早めた方がいい …… 3

カーディーラー、タクシー、飲食、オーディオ製品など、幅広い分野に事業展開する国際グループにおいて、レーシングドライバーとして活躍しながら社長業を営む人物がいます。タクシー事業を手がける国際交通をはじめとするタクシー 3 社の代表取締役社長の山野直也氏がその人です。

同氏は国際交通のほかにも、レクサスディーラーなど、グループ内の法人の経営に携わりながら、市販車ベースの自動車レースであるスーパー耐久をはじめとする国内大会に出場しています。レース活動には会社の広報的な意味合いがあるだけでなく、レース現場における経験や技術をお客様と従業員へフィードバックし、同社の車両運行の安全意識向上を図る狙いもあるとのこと。

そうした社長業とレーシングドライバーの二足のわらじを続けるなかで、山野氏が「なくてはならない存在」と強調しているのが、高パフォーマンスのノートブック PC です。オフィスや自宅、サーキットを日常的に往復する同氏が新たな相棒として選んだのは、インテル® vPro® プラットフォーム搭載の「Lenovo ThinkPad X1 Carbon」でした。果たして、選択のポイントは何だったのでしょうか。



PC は自分の「脳」の代わりになる大事なもの

学生時代からモータースポーツに関わり、卒業後は IT ベンチャーでネットワーク系のエンジニアとしてキャリアをスタートさせたという山野氏。レース活動への情熱はどんなときでも衰えることはなく、プレーキパーツ・メーカーに転職してレーシングカーのハンドルを握り SUPER GT などに参戦、2015 年に現職となってからも引き続きレースで活躍し続けています。

その間、同氏の傍らに常にあったのが PC でした。学生の頃から PC に親しみ、IT ベンチャーの入社当日には「自分用の PC をパーツから組み上げることになった」のだそう。モータースポーツでも仕事でも、用途を問わず「PC は自分の脳の代わりになるもの」と考え、万が一にもその大事な「脳」が失われないようトラブルにも備えてきたとのこと。「複数のデバイスを同期させて冗長的に同じ環境を作っておくことも、リスク・マネジメントの 1 つとしてやっていました」と、根っからのエンジニア気質も垣間見せます。

しかしながら、現在のタクシー会社社長に就任して業務をこなしつつ、レーシングドライバーとしても活動するなかで、課題に感じ始めていたこともあったと言います。それは、オフィスや自宅、あるいはサーキットなど、どんな場所でも変わらず本来のパフォーマンスで仕事ができる PC 環境がなかったことです。

タクシー事業の労務管理、給与計算、売上管理、運行管理などを担う基幹システムは、特定の PC 環境でなければ動作しません。自宅やサーキットにいるときには持ち運んでいるノートブック PC で仮想環境を立ち上げるか、もしくは社内の PC にリモートアクセスし、その上でシステムを利用する、という回りくどい方法をとらざるを得ませんでした。



国際株式会社 代表取締役 CEO/CIO 山野直也氏。
レーシングドライバーの山野哲也氏を実兄に持つ
(撮影：大西幸仁)

業務とレース活動の両方のニーズを1台で満たす ノートブック PC とは



会社の広報活動としてレースに参加する山野氏は、レース現場でもリモートで業務をこなす（撮影：大西幸仁）

オフィス業務用とレース活動用とでそれぞれ別の PC を用意するのは、当然ながら荷物が増えるため、頻繁に移動する山野氏は避けたかったこと。モバイル優先の軽量なノートブック PC に切り替えるのも手でしたが、サーキットでは車載カメラで撮影した 4K 動画の編集やデータロガーによる走行分析といった作業をこなすため、非力なデバイスでは役に立たないと考えたと言います。

そこで同氏が選んだのが、第 11 世代インテル® Core™ vPro® プロセッサ搭載の「Lenovo ThinkPad X1 Carbon」でした。4K 解像度の 14 型ディスプレイに、大容量のメモリーを組み合わせたこのモデルは、まさに「ドンピシャ」だったと同氏。「今まで持ち運んでいた 13 型クラスのノートブック PC より画面が大きく、解像度も高いのに、重量感が変わらない」ことにまず驚いたと言います。

普段使いの性能は以前と変わらず必要十分。それでいて処理負荷が高まっても発熱やファンノイズは少なく、長時間使用でもストレスがない。トラックパッドやキーボードの軽快でリニアな操作感もお気に入りとのこと。実際にサーキットに持ち運んで使用してみたところでも、動画編集は快適。データロガーによる分析では、グラフを詳細に見ていくうえで 14 型、4K 解像度のディスプレイが威力を発揮したと言います。

また、走行の合間に通常の業務をこなしていく場面でも、持ち運びの楽さ、取り回しのしやすさを実感。社内 PC にリモートアクセスする必要もなくなったため、動作速度がネットワーク環



Lenovo ThinkPad X1 Carbon は通常の業務はもちろん、動画編集やレースマシンのデータロガー・チェックでも活躍するという（撮影：大西幸仁）

境に左右されず、ノートブック PC 単体で円滑に業務システムを利用できるのも良かったと語ります。

「法人を掛け持ちしていることもあって、レースウィーク中もハンドルを握っているとき以外は普通にいつもの仕事をしています。素早い判断が求められ、すぐにメール返信したり資料を作ったりしなければならないときがほとんど」という同氏にとって、小回りが利いて高い性能をいつでも引き出せる Lenovo ThinkPad X1 Carbon は、満足のいく選択になったようです。

攻撃されてからでは遅い。 高いセキュリティーの信頼ある製品を



常にノート PC を片手に飛び回る山野氏だからこそ、セキュリティーに対する意識も高い（撮影：大西幸仁）

一方で、Lenovo ThinkPad X1 Carbon はインテル® vPro® プラットフォーム搭載であることから、それが持つセキュリティーやリモート管理機能にも山野氏は期待を示します。例えば「インテル® ハードウェア・シールド」では、起動を不能にする OS 外への攻撃や、データ漏洩を引き起こすマルウェアから保護できますし、データを人質にとるランサムウェアなどの脅威も検出して対処可能になります。

「仕事柄、機密情報も数多く取り扱います。攻めた販売戦略を立てていくうえでは、まず情報を保護するという守りの部分をしっかり固めないといけません」と山野氏。「攻撃されてからでは遅いし、取り返しもききません。そういう意味でも高いセキュリティー機能をもつ、信頼ある製品を使うことは重要」と語り、それにはインテル® vPro® プラットフォーム搭載 PC が欠かせないと指摘します。

さらに「インテル® AMT (インテル® アクティブ・マネジメント・テクノロジー)」を活用すれば、PC の電源オン・オフや、Windows Update によるセキュリティー上重要なアップデートなどを遠隔から実行できます。テレワークを推進する企業であれば、各地に散らばっている社員の PC すべてを一括で制御・管理することも可能です。

また、山野氏がたびたびそうしていたように、社内 PC にリモートアクセスする場合、直接その PC を使うことがなくても電源は常にオンにしておく必要があります。そうすると、ノートブック PC などではハードウェア寿命が短くなってしまい、いざというときにマシントラブルで社外からアクセスできない恐れもありました。

対してインテル® vPro® プラットフォーム搭載 PC であれば、電源がオフになっていてもリモートから電源をオンにしてアクセス

することができるため、常時電源を入れておく必要はありません。インテル® vPro® プラットフォームであればハードウェア寿命を伸ばすことができる利点もあるわけです。

最上位機種でなくてもよいので、 買い替えサイクルは早めた方がいい

「現在は法令上の理由で対面でなければいけません、タクシー業界では、ドライバーの運行前にスマートフォンなどを使ってリモートで点呼する、IT 点呼の導入へと向かっています。タクシー利用時のお客様の現金決済は 2 割ほどに減り、この 4 ~ 5 年でほとんどが電子マネーやクレジットカードに置き換わりました」と山野氏は明かします。

一方、以前からサーキットで仕事をするなど、いち早くテレワーク的なワークスタイルを実践してきた同氏ですが、2020 年以降は「周囲もテレワークに向く環境になってきた」ことを実感しているとのこと。メールやテキストチャットだけだったものが、音声や動画を使ったウェブ会議までこなせるようになり、「レース中でも仕事はかどるようになった」ほどだと語ります。

このように業界全体でデジタル化は急速に進み、デジタルに抵抗感のない若い世代が会社に増えてきているなど、テクノロジーを活用する土壌は整いつつあるとのこと。そのうえでレース活動を行い、同時に普段の業務もこなしているのは、山野氏自らが率先して見せることで「どこにいても仕事できる環境を作ることには難しくない」ことを社員に知ってほしいからとのこと。将来的には内勤の全社員にインテル® vPro® プラットフォーム搭載ノートブック PC を導入し、遠隔制御で効率的なデバイスの一元管理を目指すとしているとのことですが、現在の状況ならそれも大きな支障なく達成できるにありません。

脳の代わりになるものだからこそ「自分のパフォーマンスは PC 次第」とまで言い切る山野氏。自身の PC 環境は 2 年に 1 度のペースで見直しているそうで、無理に長く使い続けるより、「最上位機種でなくてもよいので、買い替えサイクルは早めた方がいい」という考えとのこと。「古い PC だと時間が無駄になる。パフォーマンスの高い最新 PC の方が、結果的に効率のいい経営ができる」と信じ、これからもレースカーと経営の 2 つの舵をしっかりと握り続けます。



(撮影：大西幸仁)



インテル® テクノロジーの機能と利点はシステム構成によって異なり、対応するハードウェアやソフトウェア、またはサービスの有効化が必要となる場合があります。実際の性能はシステム構成によって異なります。

すべての条件下で絶対的なセキュリティを提供できるコンピューターシステム、製品、コンポーネントはありません。一部のインテル® Core™ プロセッサ・ファミリーで利用できる内蔵セキュリティ機能を使用するには、対応するハードウェアやソフトウェア、サービスの有効化、インターネットへの接続が必要となる場合があります。結果は、システム構成によって異なります。詳細については、各 PC メーカーまたは販売店にお問い合わせいただくか、<http://www.intel.co.jp/vPro> を参照してください。

Intel、インテル、Intel ロゴ、その他のインテルの名称やロゴは、Intel Corporation またはその子会社の商標です。

その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

INTERNET Watch (2021 年 9 月 3 日) に掲載されたコンテンツから抜粋し、再構成したものです。

インテル株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-1-1

<https://www.intel.co.jp/>

©2021 Intel Corporation. 無断での引用、転載を禁じます。

2021 年 9 月

348487-001JA

JPN/2109/PDF/TMRB/CCG/NM